

BUNKYO 文協

長崎県文化団体協議会

2006.1.....

63

特集 県民文化祭

- ホールスタッフ：波佐見町教育委員会／棚倉 哲
- 地域文化の担い手（人形劇）
：飯盛文化協会会長／藤本八重子



BUNKYO 文協

特集 「第4回ライトミュージックフェスティバル」…………… 2



- インフィニタスが震えた夜 …………… 6
(津軽三味線への誘い/木乃下真市)
- 伝統芸能の見事な技 …………… 7
(人形芝居フェスティバル)
- メサイヤがステンドグラスに輝いた …………… 8
(「しま」の教会音楽コンサート)
- オーケストラで歌う校歌の美しさ …………… 9
(ふれあいコンサート in 度島)
- エッセイ/なぜ音楽をしているのか? …………… 10
大阪シンフォニカー交響楽団首席指揮者/大山平一郎
- 第34回長崎県新人演奏発表会 …………… 11
“オーディション”のお知らせ

HALLStaff (ホールスタッフ)

- 波佐見町総合文化会館・ウェイブホール/棚倉 哲 …… 12



地域文化の担い手 (飯盛編)

- “人形劇はひとづくりまちづくり”…………… 14
(人形劇キャロット劇団代表/藤本八重子)
- 県展 …………… 17
(第50回記念長崎県美術展覧会公募展移動展)



最新イベントガイド

- スーパー和太鼓プロジェクト「Zi-PANG・LIVE2005」
- クラシックギターの魅力・益田正洋若きピアニスト田代節子
- 箏・尺八への誘い(竹山直樹・竹山ミサオ)…………… 18
- 受賞おめでとうございます
◎平成17年度地域文化功労者表彰
◎第21回長崎県地域文化章 …………… 19
- 文化基金へご協力ください(長崎県文化基金のしくみ)
- 編集後記 …………… 20



●出演してやったりい！

★出演しての感想

今回、俺たちはYOGOE HATSを組んで初めてコンテストに出演しました。会場の雰囲気はどうか、音響的にはやりやすいのか、なんて考えながら、ド緊張のままやっちゃいました。しかし始めてしまえば何にも関係なくいつもどおりズパーキン!! 歌っているとき気持ちいいのなんのってね（笑）
そして結果グランプリ取ってしまいました！でもコンテストは心臓の敵です！でも喜びは心臓直結！。ほんと応募してよかった！自分達の音楽が認めてもらえた最高の瞬間でした！ありがとう！

YOGOE HATS

（ヨゴエハッツ）

- ◎ボーカル／田中 省吾
- ◎ベース／山口 一也
- ◎ギター／山口 隆司

★活動目標

ライトミュージックグランプリ・Be-7ワンマン・全国ツアー・メジャーデビュー・フジロック出演・紅白出演・ワールドツアー。

★プロフィール

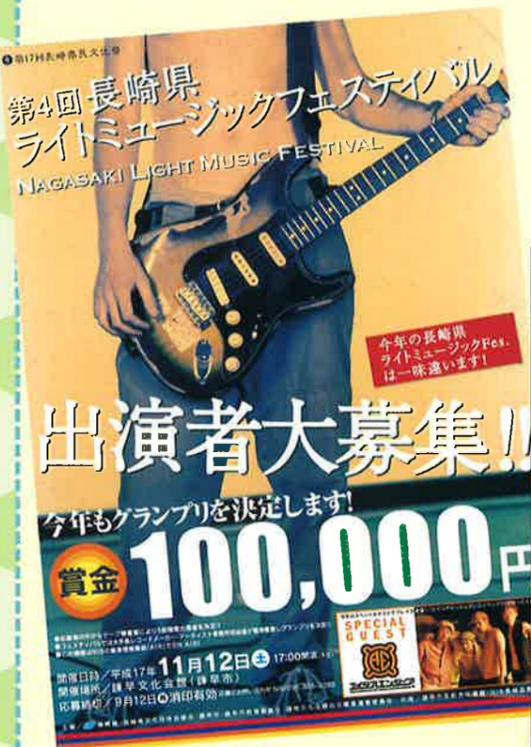
バンド名は西彼町付近の方言。夜声八丁（＝オバケの意味）から。
今年6月ミニアルバム『夜声八丁』をリリース。横道ロックバンドとして長崎DORUM.Be-7を拠点に活動中。
「歌謡パンクフォークロック」というジャンルを上げたい。

Light Music Festival

第4回 長崎県ライトミュージックフェスティバル



11/12（土）諫早文化会館



◎スペシャルゲスト

●エイジアエンジニア（エイベックス）

フジTV系人気アニメ「ONEPIECE」のエンディングテーマ「エターナルポーズ」のエイジアエンジニア



◎出演者〔出演順〕

- 1/Pumpkin Smile（パンプキンスマイル）
- 2/喜一郎（きいちろう）
- 3/HAGUKI（ハグキ）
- 4/ONE GRAM（ワングラム）
- 5/Pure Blue（ピュアブルー）
- 6/YOGOE HATS（ヨゴエハッツ）
- 7/Lovely Cat's（ラブリーキャッツ）
- 8/HASBAND（ハズバンド）

◎審査員

審査委員長/BMG JAPAN国内制作本部宣伝部：熊原淳一郎
審査員/デフスターレコーズ プロモーター：佐々木美佐子
エイベックス・マーケティング・コミュニケーションズ プロモーター：福井 実
オールエリアエンタテインメントプロデューサー：高埜真人
研音 音楽セクションマネージャー：小峰淳美
ゲスト/作詞家：松本一起

一次選考への応募は54組。平成17年9月21日（水）10時半。長崎国際テレビ会議室に集まった7人の審査員。順々に応募曲を試聴していく。審査員の拳手が5人になったら音源も自動的に停止、次の応募曲に進むシステムだ。午後2時過ぎ、審査集計結果が発表され、本選に8組が残った。

本選フェスティバルは、約2ヶ月後の11月12日（土）。会場は諫早文化会館。リハーサルが午後10時から開始。午後3時から1時間、ゲスト審査員の松本一起氏（作詞家）による音楽セミナー。受付には開場前から熱烈的なファン50人ぐらいが並んだ。午後5時開演、あとは怒濤のような2時間だった。最後は、スペシャルゲスト：エイジアエンジニア（エイベックス）。会場はオールスタンディングで盛り上がった。

本選に残った8組はみんな熱演だった。今回の出演を契機に彼らの演奏もさらに飛躍するはず。期待したい。注目のグランプリは、YOGOE HATS（ヨゴエハッツ）。トロフィーと副賞10万円をゲットした。彼らの夢はワールドツアー。その前にBe-7ワンマンショーに出演することが、目下の目標。ぜひ夢が実現できるよう期待したい。

Lovely Cat's (ラブリーキャッツ)

◎ギター／三隅 健 ◎ボーカル／小山内聖香 ◎ベース／増山大紀
◎ドラム／大谷秀司



◆ニャーオッス↑↑↑、私達は猫。昼は別行動、夜になると集まり、歌います。

Lovely Cat'sは文化ではないでしょう？

結成1年のバンドです。Zinenはバンド活動をしていたものの、KenとShujiはblank12年の初心者状態。聖香にいたっては生まれて初めてのバンドです。

結成のきっかけは2年前…。長崎に飲みに行ったKenが諫早駅に帰ってくると、地下道からア・カペラが響いていました。酔っていたKenは冷やかしかつ半分に『歌が好きだから歌っている』と笑う彼女の歌を楽しみました。それから半年…意を決したKenがZinenに彼女の捜索を依頼。Shujiにオファーを出しました。『もし彼女が見つかり、3人で彼女の歌を聴き、3人も衝動が抑えられなかったらバンドを結成しよう』と。家庭も仕事もあり、バンドなんて遠い日の思い出のKenとShuji。男性ボーカルのメインバンドを持つZinenが、バンドを結成する照れや不安やリスクは小さいものではありませんでした。それから半年…諫早駅の地下道で初めて4人が揃い、聖香の歌に酔いしれていました。

今回、出演させていただき“文化”について深く考えることができました。Lovely Cat'sの音楽は文化と呼べるものではありません。しかしLovely Cat'sが生まれた音楽への想いは文化と呼べるのかもしれない。

Lovely Cat'sは少しだけ成長しました。ここから“ありがとうございます”

Pure Blue (ピュアブルー)



◆佐世保をベースに平均年齢48才のフォークバンド、でも聴かせます。

◎セカンドギター／佐々木光也
◎リードギター／福田智文
◎ベースギター／橋本弘之

「大変感激しました」

今回、初めて出演させて頂き、大変感激しました。応募前はとても出演出来るなんて思ってもみませんでした。選考通知が届いた時は嬉しくて、その日が待ち遠しく、いい歳をしてまるで小学生みたいにはしゃいでいました。

ただ、若い人達ばかりの中、しかもほとんどがバリバリのロックバンドの中、我々中年フォークバンドが選ばれたのが不思議で、話題性で選ばれたのかなと思っていたのですが、後日、本当に実力で選ばれたことを聞かされ、安堵すると共におじさん族もまだまだ若い人達には負けていないなと思ひ、頑張っって今後も続けて行こうと思っております。

この様な企画は大変良いものだと思うし、年に一度という事ではなく、もっと多くの若い人達の活動出来る場を作ってもらえたら、もっともっと活気づく長崎県になるのではないかなと思います。

色々なジャンル、色々な年代の人達の音楽の祭典を設けて頂ければ、社会的にも理解が深まる様な気がします。その為には我々おじさん族も多少のお手伝いができるのではないかなと思います。



◎ボーカル・ギター／中村 修 ◎ベース／上西 誠
◎ドラム／猪子保憲 ◎パーカッション・ギター・キーボード／野田浩司
◎ボーカル・ギター／森内秀学 ◎キーボード／三好 豪

HASBAND (ハズバンド)

◆メンバー全員が小学校の先生という異色のロックバンド。聴く人を楽しませる演奏がスゴイ！

「とても貴重な体験でした」

おだやかな秋晴れの日、諫早文化会館に集まった出演者達は、みんなそれぞれの方法で音楽を愛し、一生懸命音楽に打ち込んでいる人たちがばかりのように見えました。プロを目指して、その足がかりに今回の優勝を！という意気込みの表れたバンドや、離島という環境の中で地道に活動している若者達、初めて大きな舞台上で演奏することに緊張している人達、その他さまざまでした。そして、それぞれの思いを胸に、出番を待っていました。いろんな思いがひしひしと伝わってくるだけに、そんな方達とともに、同じステージで演奏できたことはとても貴重な体験でした。そして何より、たくさんの方々の前で楽しく演奏できたことが一番うれしいことでした。



喜一郎 (きいちろう)

◎アコースティック
ギター&弾き語り
境 喜一郎



◆福江島出身のシンガーソングライター。モットーは「魂の唄」毎日出演しているBe-7のライブは要チェック。

「表現者として」

出演できたことを大変光栄に思っております。前回落選したくやしさともあり、今回の出演に対する想いは本当に感極まるものがありました。人にとって文化とは芸術とはなんでしょう？人の生活の隙間にありながらも我々の人生を豊かにしてくれるものを感じてなりません。否、むしろ衣食住ではなかなか感じることができなくなった「こころ」や「たましい」の存在を感じれる部分が文化や芸術にはあるのだと私は思います。イベント出演後、私は明治時代の小説や詩集などの古典文学作品を前にもまして読むようになりました。もちろん表現者としての自分の枠を広げるためでもあります。作品をつくる表現者の作品に対する想いやそれにかける情熱、つまりは本物の「こころ」や「たましい」を常に感じていたい、感じれるこころをもった人間でありたいという切なる願いがあるからです。これからも表現者としてよい作品をつくりあげるために努力を惜みず、挑戦し続けます。いつも唄を聴いてくださるみなさん、本当にありがとうございます。

ONE GRAM (ワングラム)



◆諫早から全国を目指す。その前に新しい炊飯器を買いたい。

◎ボーカル&ギター／南川大介
◎ギター／後田寛之
◎ベース／岸 翼
◎ドラム／南川光太郎

「今年末頃には全国発売」

応募の動機はずばり“資金”でした。9月からミニアルバムのレコーディングに入り、年末には全国発売の予定、それに伴う全国ツアーの資金にあてたいと思っていました。

いつも自分達が一番大事にしたいのは地元です。これからも応援よろしくをお願いします。

Pumpkin Smile (パンプキンスマイル)

◎ボーカル／福嶋 司
◎ギター／田川 真吾
◎ベース／福嶋 巧
◎ドラム／久保田博之



◆4人が繰り出すキャッチーでPOPな楽曲を武器に、長崎を中心に活動中！

「グランプリは取れなかったけど、俺達にとって良い経験になったな」

11月12日。諫早文化会館を後にした僕らはその言葉に強く頷いた。自分達が好きなように曲を創り、人に聴かせ、人が共感し、人が評価し、批判する人も勿論居る。その様な答えがない世界の中で、予選を通過しただけでも大満足だったのだが、やるならグランプリを取りたい。メンバー一人ひとり、声には出さなかったが、心の中は皆同じ気持ちだったろう。

結果、皆それぞれの自分を出し切ったので後悔はなかった。一つの目標に向かって進むことの大事さを今さらながら、改めて教えてもらった。最後に一つ、第4回ライトミュージックに関わった全ての人達に感謝致します。

HAGUKI (ハグキ)



◎ギター／木高良治
◎ボーカル・ギター
／矢口 孝幸
◎ベース／橋本 健太
◎ドラム／松村 桂吾

◆五島・奈留島に活気を与えられるように頑張ります。

「大きな経験を今後活かして」

私達は、五島列島の真ん中にある奈留島という離島で活動している為、なかなかライブをする機会も少なく、長崎・他の県などに行く事も少ないですが、島に活気を与える為に活動しています。

今回ライトミュージックフェスティバルに出場する事によって、いろいろな経験ができました。出場している人達のレベルの高さに驚き、リハーサルの際はあまりの緊張にバラバラで、本番はどうなるかと思いましたがスタッフの方々には励まされ、無事なんとかやり遂げる事ができました。また、音のセッティングに関しても細かい指導をしていただき、この場を借りてお礼を言いたいです。大変ありがとうございました。

今後は、長崎にもライブなどをしに行きたいと思うので「HAGUKI」を覚えていてください。当日、または放送を見て私達に興味を持った方は奈留島に一度遊びに来て下さい。

伝統芸能 人形芝居 フェスティバル Puppet Show Festival

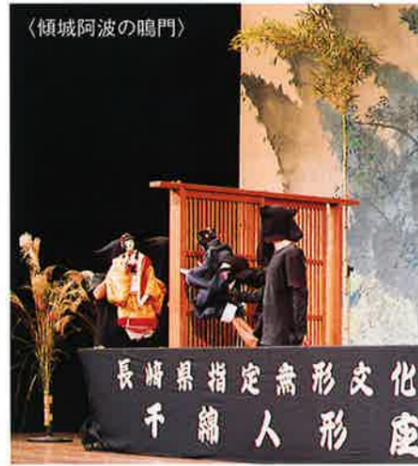
11/18(金):波佐見町総合文化会館
20(日):長与町民文化ホール



〈葛の葉〉



〈鶯姫〉



〈傾城阿波の鳴門〉

長崎県指定無形文化遺産
千綿人形座

3回目を迎えた人形芝居フェスティバルが波佐見会場と長与会場の2会場で開催された。出演したのは4団体。県内からは、血山人形浄瑠璃保存会(波佐見町)による「生写朝顔話」宿屋大井川の段」と千綿人形浄瑠璃保存会(東彼杵町立千綿中学校浄瑠璃部)による「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」血山人形浄瑠璃保存会では、昨年10月血山人形会館が開館、13人の青壮年達の意欲もさらに盛ん、舞台でもプロ顔負けの人形遣いを見せた。千綿中学生達も上達ぶりが目立ち、



〈生写朝顔話〉

美玉座 血山人形浄瑠璃

伝統芸能を守る若い意気込みを感じた舞台であった。県外からは、世界でも珍しい箱車に腰掛け一人での人形を操る八王子車人形(西川古柳座による三番目「葛の葉」「洋舞」と大阪の桐竹爾紗世氏による「禿」「鶯姫」)が上演され、人形と義太夫、そして三味線が織り成す世界に会場を酔わせた。また波佐見会場では、上演翌日の11月19日(土)、ワークショップが行われた。



ワークショップの風景

インフィニタスが震えた夜

“木乃下真市” ~津軽三味線への誘い~

10月21日インフィニタスの夜。わずか3本の弦が織り成す世界に600人近い観衆が酔いしれた。

静かなブームになっている津軽三味線。好調な前売りはそのなよりの証明である。当日は1時前から入口に列ができ、開場を30分早めた。開演、のっけから吹雪の世界。おずおずと拍手をする会場に、遠慮なく楽しんでくださいと、木乃下真市が促したのが五曲目。それからあとは、ツガルシャミセンジャズライブ。アドリブ豊かな演奏に、会場は興奮の渦。終演と同時に木乃下真市ファンクラブがあちこちで誕生したようだ。口癖に「また聴きたいね、ぜひ」。



■ワークショップには、江迎中学校全校生徒が見守る中、10人の「奏者」が舞台上がり、パチ捌きの手ほどきを受けた。



何年ぶりの快挙だろうか

「良かった」。感動した。ライブ終了後に口を揃えて話している声が聞こえた。翌日以降も、多くの人から感動の声を聞いた。担当者として非常に嬉しいことである。この公演に限ってはチケット販売の苦労もなかった。低料金でハイレベルな演奏が聞けるということもあって大反響。公演日の2週間前には完売。何年ぶりの快挙だろうか。さて、木乃下真市さんの演奏は、3本の弦を巧みに操り、繊細でありながら力強い厚みのある音を弾き出す。何ともいえない響きが心に伝わり、三味線の魅力を感じた。ワークショップでは、津軽三味線の歴史、構え方やパチの持ち方など基本的なテクニックを、演奏を交えて分りやすく説明していただき、参加した江迎中学校生徒は伝統芸能の良さを発見できたのではないだろうか。また、ステージに上がった10名の生徒は、直接指導を受けるなど、貴重な体験ができたことと思う。最後に、当町において伝統芸能公演を開催していただき深く感謝申し上げます。

江迎町教育委員会 江湖彰文

■アンケート 観客席から

- ◎ すばらしい演奏で聴き入り、どこで拍手したらいいのか夢中になりました。時間のたつのが早く、とてもよかったです。またお願いします。
- ◎ 昼のワークショップは大変楽しく分りやすく、勉強中なのでとても参考になりました。
- ◎ 長崎県内の催し物で素晴らしい企画がたくさんあるのに宣伝がへた過ぎます。もっと大勢に知らせるにはどうすべきかを、ご検討ください。せっかくの企画がもったいない。生の音を聴きたいと数年間思い続けておりました。今日は大変満足です。長崎から来た甲斐がありました。ありがとうございます。

Profile ●木乃下真市プロフィール●

1965年和歌山県生まれ。86年、87年津軽三味線全国大会で2年連続優勝。プロデビュー。これまでに5枚のアルバムをリリース。エレクトリック三味線をいち早く取り入れ、ロック・ジャズ・打楽器等との競演を可能にし、津軽三味線を強烈にアピールしている。

10/21(金)インフィニタス江迎町文化会館

オーケストラで歌う校歌の美しさ

ふれあい
コンサート
in たくしま
度島

11月1日、平戸市立度島小中学校の創立120周年記念事業としてOMURA室内合奏団を迎えての「ふれあいコンサートin度島」が開かれた。会場となった度島小中学校体育館には、全校児童、生徒はもちろん、島に住む多くの皆さんが詰めかけ、プロの演奏を楽しんだ。特に感動的だったのはフィナーレの参加者全員による度島小中学校校歌。「怒濤逆巻く玄海の舟歌遥か聞こえ…」とみんな素晴らしい合唱で島全体が包まれた。



OMURA 室内合奏団

- ヴァイオリン／中西 弾・齋藤 享
- ヴィオラ／長嶋拓生 ●チェロ／下田直子
- コントラバス／大塚宗廣 ●フルート／濱砂由美子 ●ハープ／園田真里子

11/1(火)平戸市立
度島小中学校体育館

コンサート取材して

(NCCアナウンサー 池山清子)

「しまの芸術祭」の取材で、平戸市度島を訪れました。特集タイトルは「度島小中学校にオーケストラがやって来る」。

10月12日。スタッフ3人で初めて度島にフェリーで渡りました。度島小中学校に着いた私達を迎えてくれたのは、明るい笑顔、笑顔。給食を食べ終えた子供達は、私を校庭に誘ってくれました。海をバックに子供たちが歌うシーンは思い出のカットとなりました。

島の子供たちは元気です。大きな声の挨拶、思いっきり遊ぶ、食べる。そして、勉強や歌の練習の時は真剣です。中学生までは大きな口を開けて歌っています。度島の小中学生は何事にも一生懸命で、ひたむきなのです。

そしてOMURA室内合奏団との交流演奏会本番の日。子供たちは初めてのプロのオーケストラの生の演奏に目を輝かせ、練習の成果を十分に発揮できたようでした。

私は鹿児島市から南に400キロの海に浮かぶ奄美大島で生まれ育ちました。度島の子供たちがまるで自分のようで、思いが合った取材ができたと思います。

島に響きわたる歌声とオーケストラの共演。120年の度島小中学校の歴史に新たなハーモニーが生まれました。そして、子供たちに負けないように、私も元気一杯頑張っていこうと思います。



■臨時のバイオリン教室に湧く会場

(コンサートの様子はNCC長崎文化放送の「スーパー」チャンネル「ながさき」で10/26と11/8の2回放送され、大きな反響を生んだ。)

メサイヤがステンドグラスに輝いた Messiah

「しま」の教会音楽コンサート



奈留教会 (五島市)

3回目を迎えた「しま」の教会音楽コンサート、今年度は、11月2日(水)から5日(土)の4日間開かれた。上五島会場では、11月2日(水)夜7時、青砂ヶ浦教会、中之浦教会でアウトリーチコンサート、翌3日(木)夜7時、新上五島町鯨賓館ミュージアム・ホールで、翌4日(金)からは会場を五島市に移して、午後2時から奈留教会、浦頭教会でアウトリーチコンサート、5日(土)は午後2時から福江文化会館で開かれた。出演したのは、迫昭嘉指揮によるOMURA室内合奏団。これに、独唱者として、コロネりかさんと坂波利加さんが、地元から混声合唱団が加わったコンサートとなった。

曲目は、W・A・モーツァルトとG・F・ヘンデル。教会のステンドグラスにメサイヤが輝くような、五島列島ならではのコンサートとなった。(写真はいずれも小笹康洋氏)

コンサートを終えて
松崎 義治
五島市教育委員会生涯学習課

五島地域の音楽文化の向上と地域の文化的財産の活用を通して住民のふるさとに対する愛着と誇りの醸成を目的として、平成15年度から3カ年で実施された「しま」の教会音楽コンサートも今年度が最終年度となりました。五島の風景を特徴づける浦々に建つ教会。そこでのコンサートがどのようなものになるのか。一部の教会では、すでにコンサート等を開催していた実績もあったが、水之浦教会(平15、16開催)、奈留教会(平17開催)では初めての試みであり、果して成功するかという不安は正直ありました。また、教会側でも信徒達の祈りの場であり聖なる場所でのコンサート開催には、少なからずの抵抗があったように思います(当初は教会堂でのコンサートも有料であったため、その辺りも影響していたかも知れませんが)。



新上五島町鯨賓館ミュージアム・ホール

OMURA 室内合奏団

長崎県内に位置するシーハットおおむら(さくらホール)を拠点に県内在住及び出身演奏家のトップ奏者が集い「弦を中心としたプロの室内オーケストラ」として結成。音楽監督の迫 昭嘉、ゲストアーティストの川本嘉子(ヴィオラ)、久保田巧(ヴァイオリン)、豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)、松原勝也(ヴァイオリン)といった日本屈指の演奏家を登録し、その指導や共演を通じた演奏力や音楽性の向上に努め、県内外で広く活動できる質の高い室内オーケストラを目指している。'03年10月の「お披露目コンサート」を皮切りに活動を開始し、'04年4月に正式発足した。これまでに、県内の時津町、南串山町、大島町、深江町ほか各所においてコンサートを展開。「しま」の教会音楽コンサートでは3年連続の出演をはたした。



青砂ヶ浦教会 (新上五島町)

なぜ音楽をして いるのか？

大阪シンフォニカー交響楽団
ミュージック・アドバイザー兼
首席指揮者
大山平一郎

少し前になるが、日本経済新聞の文化欄に俳聖芭蕉の俳句の新しい解釈のことが書かれていた。「古池や蛙飛びこむ水の音」を例えに挙げ、切れ字の「や」の解釈次第で、単なる視覚的状況描写の様なことより、閑寂な世界に生きる作者の心の表現に近づくことができるのではないかと云う新説だ。この芭蕉についての記事は私にとって刺激になった。

音楽の演奏に携わる者は、再現芸術家である。つまり、作曲家によって五線譜に書かれた音符をいかに読解して、それを作曲者が意図した思いを、生きた演奏にするかが我々の仕事なのだ。指揮者である私は、作曲家によって書かれている全ての音符の意味が、「私」の頭の中で判っていないと、指揮台に立っていないのが宿命だ。演奏家と云う創造芸術の世界にいながら、実は作曲家の芸術、つまり音楽創造者の心が読めない、本場の演奏が出来る訳がないのである。



ここで、作曲家の書いたものをどのように解釈す

場する。このレッスンで解ったことは自分が楽器を弾く技術を持っていたにも拘わらず、「音楽を演奏する」と云う意味すら理解していないことだった。その日のうちに、当時接続するにも六時間程かかり、通話料も痛いほど高かった国際電話で、親に音楽辞典と百科辞典を直ぐ送ってくれるように頼んだのを覚えている。20歳の人生にして、最悪の日であった。否、今振り返ると、最良の日であったのかも知れない。

このようにして、40歳頃になり、作曲家の書いたものを解釈する読解力と楽器を弾きこなせる技術を身に備えて、ようやく一人前の演奏家に成長してきたかな、という訳だが、ここからまた一段と厳しい道が演奏者の人生に待ち構えている。極端な論だが、ピアノ奏者は自分だけで演奏し、独自の解釈を主張できる大きなレパートリーがあり、生涯他の演奏家と共演をしないまま音楽人生を営むこともできる。しかし他の楽器を演奏するものは常に他の楽器と共に演、つまり合奏をしなければならぬ。曲がどのような考えの基に書かれたかを理解するために、自分が研究して独自の解釈を打ち立てたにも拘わらず、いざ合奏となると自分の思いだけを押し通す訳にはいかない。共演者の解釈もある。相手の考えが自分のものより優れていれば、あっさりそれを受け入れることで一件落着なのだが、中々そんなに上手くはいかない。せいぜい8人くらいまでの器楽奏者が集まって演奏するのが、室内楽の最大限度。それ以上の人数になると、どうしても指揮者が必要となってくる。

近ごろの選挙で、テレビ局が何人かの各党幹部を集め討論会を放送していたが、その有様は、室内楽の練習での各奏者の主張を言い張り合うのと非常に似ている。各々の奏者は違う楽器、違う声部を受け持っていて、山の頂上へ行く己の道の選択を論じているようだが、気が付くと皆が同じ山の頂上を目指しているとは限らない事がわかってくる。政治の世界のことは知らないが、芸術の世界でいう「妥協」は、その創作結果が不成功に終る。合奏する人数が

るか、その第一歩を教えられた私の若い時の体験話をしてみよう。私の音楽家を目指す人生は5歳の時、ヴァイオリンを弾くことで始まった。演奏家になるには、幼い頃から明けても暮れても、その道における技術習得のための練習に追われる。音楽大学を卒業するまでは、試験もコンクールもある。最初から最後まで暗譜で間違いなく弾けるか、音程やリズムは正確だったか、伴奏と合っていたか、若い学生はこの程度の事で精一杯だ。曲の解釈は？ それは先生から教えていただくように弾けば正解であると安心している。

英国での勉強が始まった時のことである。6ヶ月程の基本技術の見直しがあり、ようやく小曲を与えられた。見たことも聞いたこともない曲だが譜面はいたって簡単そうなので、久々にのんびりとした軽い気持ちでレッスンに挑んだ。学校のレッスン室、調弦を終え、弾きだそうとした時、質問が先生の口から出てきた。「平一郎は今から弾く曲について、それが何であるかを説明できるか」と。「ナンであるとは...？」慣れない英語で「Not really」と返答をすると、先生から楽器をケースに戻すように言われ、次には図書館への順路を教えられた。「この曲が何故、どのような状況環境で作曲家が書いたか判らたら戻って来なさい」と不機嫌そうに言われた。今までに、弾く曲を解明するために図書館に足を向けたことはなかった。わからない英語で、まして英語の本しかない図書館での本探しだ。先生はジリジリしながら部屋で待っている。私は真つ青だ。行き合わたした友達が私の顔色を見て、この曲のことが書いてある本を捜し出してくれたのだが、自分の英語力では何が書いてあるのか読解できない。何時も持ち歩いている英和辞書は部屋に残してきたカバンの中にある。辞書を取りに戻って来た私を見た先生はポツリと「明朝9時に来なさい」と。

次の日のレッスンは、話しばかりで終わった。その内容は作曲家の親との関係や恋愛の事、また、作曲家の雇い主との政治的関連、フリーメイソン等が登場する。百人を超しても、一つの解釈がその演奏を貫かなければ、本物ではない。だから俳句では、「古池や」の「や」の一文、音楽では総譜に記された一音一音が問題になってくる。再現芸術をやっている面白さである。

若い世代の奏者への提言がある。何の世界にもその道の経験者に、「審査」され「認められ」ようやく己の道が開けてくる。若い奏者は音を弾くことに専念する事で将来の鍵が手に入るのではないかと懸命に練習する。それはいずれ楽器奏者として成長していく過程のほんの一部としては正解だが、一人前の演奏家として世に認められる条件としては、楽器をまず弾けることからの出発点である。

そしてあえて言うならば、楽器が弾ける、弾けないが解決する前に、既に再現芸術の根幹を把握し、不完全ながらも「何故、音楽をしているのか」と云う事を探究している姿勢が存在すべきである。これが理想の姿である。我々音楽家は、次世代の若い芽に、この条理を理解し音楽に励んで欲しいと願っている。



第34回 長崎県新人発表演奏会 “公開オーディション”のお知らせ

- 日時/3月14日(火)、15(水) 午前10時~
- 会場/とぎつカナリーホール 【西彼杵郡時津町野田郷62】 電話/095-882-0003
- 募集部門/声楽・ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター
- 入場料/無料
- 主催/長崎県文化団体協議会 NBC長崎放送
- 共催/長崎県・長崎市・時津町
- 後援/長崎新聞社・西日本新聞社・朝日新聞社
毎日新聞社・読売新聞西部本社
NHK長崎放送局・FM長崎・ザながさき・ながさきプレス

審査委員

- 審査委員長/ 大山平一郎: 大阪シンフォニカー交響楽団 ミュージック・アドバイザー兼首席指揮者
- 声楽/坂井 洋子: 佐世保市音楽協会副会長
永吉美恵子: 活水女子大学音楽学部教授
西 由美子: 長崎県新演奏家協会会長
村嶋寿深子: シーハットおおむら館長
- ピアノ/川口由紀子: 佐世保市音楽協会常任理事
堀内 伊吹: 長崎大学教育学部教授
林田 賢: 林田賢ピアノコミュニティハーモニー代表
松藤 弘之: 佐賀女子短期大学教授
- 管楽器/小山 大作: OMURA室内合奏団ファゴット奏者
坂本 辰則: 活水大学音楽学部非常勤講師・トロンボーン奏者
- 弦楽器/原田 大志: 福岡教育大学助教授
松原 勝也: 東京藝術大学助教授
- ギター/山口 修: ギタリスト
山下 亨: (社)日本ギター連盟九州本部長





■キャロット劇団の皆さん
上、平成16年11月、福岡での「とびうめ国文祭・ちくしの人形劇まつり」
左、平成17年7月、別府市での「おはなしの世界」

「人と触れあうことが好きなんです。観客の喜び、人形劇をはじめたきっかけは、子どもに絵本の読み聞かせをしていたんですが、ある時、もつと動きが欲しいなと思って思ったんです。見るのと聞くの両方で伝えられたらいいなと。そのとき『人形劇だ！』って閃いたんです」
思い立ったが吉日。何のノウハウもなかったのに、当時PTAの教養部で新聞づくりをしていた仲間を誘って、手探りで人形劇づくりを始めた。台本は『日天さん月天さん』。人形は見よう見まねで割箸と紙で作った。ペープ・サートと呼ばれる、割箸に動物の絵をかいた紙をはさんだものを動かす初歩的な人形劇である。
初舞台は昭和62年、第16回飯盛町文化祭。だが、観客の反応はあまり良くなかった。
「何が問題だったのか、考えました。そしたら、借り物の台本じゃなく、自分達のオリジナルをやろう！と。それからは地区のお年寄りに昔話を聞いてまわる日々でした。飯盛には、面白い話がいっぱいあるんです」
やがて方言を使ったオリジナルの台本ができてきた。人形も立体的にして動きを大きくした。人形作りなどしたことなかったが、若い頃に学んだ染色・工芸・フラワーアート・茶道・華道がここで役立つたというわけだ。文化が、無駄と思われるようなことばかりから生まれるということをしみじみ実感したのである。
こうして出来上がったのが、オリジナル第1作『し

よんべんたんげぼとん』。翌年の第17回飯盛町文化祭で発表。土地の言葉を使った話に、客席が揺れた。笑いも出た。続く第2作『とんぼくろうときつね』、第3作『びよびよのたぬき』と地元の話で題材に方言を台詞にした作品を発表すると、テレビ長崎が取材に来た。平成元年のことである。これを契機に周囲の反応が変わり、理解と賛同を得られるようになった。
「一つの作品を作るのに半年から1年掛かるんです。全員が集めるのはせいぜい週に2〜3回です。自宅に持ち帰り頭作りをしています。家族の理解が何よりもありがたいです」
平成2年の長崎旅博覧会には、オリジナル作品『香田のいたずらきつね』『てぶくろ』を携えて出演、好評を博した。こうした実績が認められて、平成4年第8回長崎県地域文化章を受章。
「地域文化章をいただいたことで、やっと家族や地域に認知されたように思います。受章が、県教育委員会からの推薦ということもあり、その期待に応えなければと今までやってきたことが認められて、もつと頑張ろうという気になりました。脚本を起こし、人形の制作練習公演と完成までのプロセスは長く、忍耐のいる活動ですが、そのことを認められて気持ちの張りが出て、子育て真っ最中の母親の社会参加が出来るとい思いでした」
平成5年には、これまでの人形劇から人間劇にも挑戦し、『しよんべんたんげぼとん』を発表した。現在ではオリジナル作品は17、上演回数は一〇〇回を超えた。公演は県内の文化施設、福祉施設、小学校はもとより、九州各県に遠征も。一昨年11月は国民文化祭「全国ちくしの人形劇まつり」に出演、今年7月別府市で開催された「第2回ピーコンプラザ」でお届けする『親と子のおはなしの世界』では『うりこ姫とあまんじゃく』を上演、喝采を博した。



■平成17年11月27日の人形劇まつりでは「ばけもんだこ」を上演したむかし、むかしのこつげなたいよこすていとこの、浜ん先ん方に、ふつとか岩んあつたげな。そん岩ん下に、こらまたふつとかたこんすんじよつたげなたい。ある日んこつ、なまけもんの八べえは、浜に遊びげいったげな...



■【香田のいたずらきつね】
平成2年、長崎旅博覧会で上演



■【うりこ姫とあまんじゃく】
平成17年、「第2回ピーコンプラザ」でお届けする『親と子のおはなしの世界』で上演

よんべんたんげぼとん』。翌年の第17回飯盛町文化祭で発表。土地の言葉を使った話に、客席が揺れた。笑いも出た。続く第2作『とんぼくろうときつね』、第3作『びよびよのたぬき』と地元の話で題材に方言を台詞にした作品を発表すると、テレビ長崎が取材に来た。平成元年のことである。これを契機に周囲の反応が変わり、理解と賛同を得られるようになった。
「一つの作品を作るのに半年から1年掛かるんです。全員が集めるのはせいぜい週に2〜3回です。自宅に持ち帰り頭作りをしています。家族の理解が何よりもありがたいです」
平成2年の長崎旅博覧会には、オリジナル作品『香田のいたずらきつね』『てぶくろ』を携えて出演、好評を博した。こうした実績が認められて、平成4年第8回長崎県地域文化章を受章。
「地域文化章をいただいたことで、やっと家族や地域に認知されたように思います。受章が、県教育委員会からの推薦ということもあり、その期待に応えなければと今までやってきたことが認められて、もつと頑張ろうという気になりました。脚本を起こし、人形の制作練習公演と完成までのプロセスは長く、忍耐のいる活動ですが、そのことを認められて気持ちの張りが出て、子育て真っ最中の母親の社会参加が出来るとい思いでした」
平成5年には、これまでの人形劇から人間劇にも挑戦し、『しよんべんたんげぼとん』を発表した。現在ではオリジナル作品は17、上演回数は一〇〇回を超えた。公演は県内の文化施設、福祉施設、小学校はもとより、九州各県に遠征も。一昨年11月は国民文化祭「全国ちくしの人形劇まつり」に出演、今年7月別府市で開催された「第2回ピーコンプラザ」でお届けする『親と子のおはなしの世界』では『うりこ姫とあまんじゃく』を上演、喝采を博した。

「人形劇をはじめたきっかけは、子どもに絵本の読み聞かせをしていたんですが、ある時、もつと動きが欲しいなと思って思ったんです。見るのと聞くの両方で伝えられたらいいなと。そのとき『人形劇だ！』って閃いたんです」
思い立ったが吉日。何のノウハウもなかったのに、当時PTAの教養部で新聞づくりをしていた仲間を誘って、手探りで人形劇づくりを始めた。台本は『日天さん月天さん』。人形は見よう見まねで割箸と紙で作った。ペープ・サートと呼ばれる、割箸に動物の絵をかいた紙をはさんだものを動かす初歩的な人形劇である。
初舞台は昭和62年、第16回飯盛町文化祭。だが、観客の反応はあまり良くなかった。
「何が問題だったのか、考えました。そしたら、借り物の台本じゃなく、自分達のオリジナルをやろう！と。それからは地区のお年寄りに昔話を聞いてまわる日々でした。飯盛には、面白い話がいっぱいあるんです」
やがて方言を使ったオリジナルの台本ができてきた。人形も立体的にして動きを大きくした。人形作りなどしたことなかったが、若い頃に学んだ染色・工芸・フラワーアート・茶道・華道がここで役立つたというわけだ。文化が、無駄と思われるようなことばかりから生まれるということをしみじみ実感したのである。
こうして出来上がったのが、オリジナル第1作『し

<飯盛文化協会会長>

藤本八重子

◎プロフィール

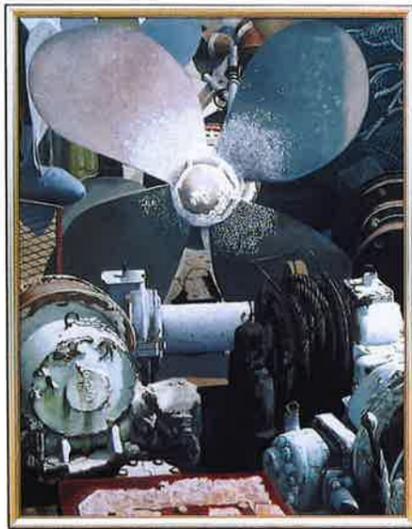
- 吾妻町生まれ。昭和57年長崎から諫早市飯盛町に居を移す。
- 飯盛町教育委員長（平成12年）
- 飯盛町文化協会会長（平成11年～）
- 人形劇・キャロット劇団代表（昭和62年～）。
- 平成4年第8回長崎県地域文化章を受章
- Flowsr・Art会主宰（昭和48年～）

（長崎県人形劇サークル協議会）



入形劇は入づくり町づくりに

地域文化の担い手 飯盛編



●西望平和賞
◎部門：洋画 ◎題名：スクリュー
◎氏名：田中秀穂 ※洋画部門の県知事賞



●野口彌太郎賞
◎部門：洋画 ◎題名：落ちていたものを拾う
◎氏名：中尾良太

県展

第50回記念長崎県美術展覧会公募展移動展

県知事賞受賞者

- 日本画：山口敦子
- 洋画：田中秀穂
- 彫刻：近藤浩一
- 工芸：鹿谷照子
- 書：深堀尚子
- 写真：江藤幸治
- デザイン：田頭一哉

第50回記念県展公募展が、9月～10月にかけて、長崎・佐世保・諫早の3会場で開催された。また本展に引続き、雲仙市、対馬市（2ヶ所）で移動展が開かれた。今年、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・デザインの7部門に2033点の出品があり、西望平和賞に田中秀穂氏（洋画）、洋画の進展並びに新人の育成と奨励を目的として設けられている野口彌太郎賞に中尾良太氏（洋画）が選ばれた。

また、今年より新規事業として実施したワークショップ（小中学生対象に123名が参加）、オークション（本県在住作家83作品が提供）、入選・入賞作品貸出（21団体）事業には多くの県民が参加し、話題を呼んだ。

〈移動展〉 展示作品はいずれの会場も約130点



雲仙市会場：10月28日（金）～10月31日（月）の4日間、雲仙お山の情報館別館で開催。ワークショップでは、佐藤利宗氏による小中学生に対する油絵実技が屋外の芝生会場で開催された。



対馬市（上対馬）会場：11月3日（木）～6日（日）の4日間、上対馬総合センターで開催。松林重宗氏による水彩画ワークショップでは、子どもたちに混じって水彩画教室の皆さんも熱心にキャンパスに向かっていた。



対馬市（美津馬）会場：11月10日（木）～13日（日）の4日間、美津島文化会館で開催。西本親雄氏による油絵ワークショップでは、限られた時間の中で、悪戦苦闘しながら、子ども達が「はじめての油絵」に挑戦した。



人形劇から始まった、藤本さんの人づくり、まちづくり。それが大きなうねりとなったのが、演劇「松本四郎左衛門」でした。

（取材／江口・野崎）
 明るく語る彼女の10年後の夢は水墨画を描くことだ。11月27日、大村市コミュニティセンターで開かれた長崎県人形劇まつりには、キャロット劇団他、人形劇団おむすびZ A、人形劇いずみ座、人形劇団コスモス、人形劇どんぐり座、人形劇なづみ座の6劇団が参加、午後からの2時間余り、舞台の人形達を食い入るように見つめる子ども達の熱気で埋まった。
 明るく語る彼女の10年後の夢は水墨画を描くことだ。11月27日、大村市コミュニティセンターで開かれた長崎県人形劇まつりには、キャロット劇団他、人形劇団おむすびZ A、人形劇いずみ座、人形劇団コスモス、人形劇どんぐり座、人形劇なづみ座の6劇団が参加、午後からの2時間余り、舞台の人形達を食い入るように見つめる子ども達の熱気で埋まった。
 である顔を見るのが一番ですね。団員は女性7人、男性2人です。男性はピンチヒッターで、道具作りや運搬など手伝って頂いて助かっています。今の悩みは、市町合併により飯盛町から諫早市となり、集会所の町民センターが公民館になり、今のところは施設利用については無料ですが、どうなるか心配です。生涯学習としての立場からも、まず規則からではなく、利用する人たちのニーズに対応できる施設として機能して欲しいと思います。道具を作るのも練習をするのも町民センターが拠点でしたので活動が継続できるか不安です。座右の銘は『成せば成る、成さねばならぬ何事も』後ろは振り向きません！前ばかり見えています」



平成17年3月13日（日）開演14時いもりコミュニティ会館で、町づくり文化事業・演劇「松本四郎左衛門」が上演された。出演者、舞台関係者、総勢75名。それぞれが初めての舞台体験、しかし素人離れした熱演に会場は大いに盛り上がった。藤本さんは公演の企画、脚本、演出などを手がけた。

「郷士の偉人、四郎左衛門への町民の思いを形にしたかった。劇に出演した子ども達は進学などで古里を離れても、劇に参加した思い出と共に、古里を思う心をはぐくんで欲しいとおもいます」

※松本四郎左衛門：江戸時代に、飯盛町江ノ浦地区の干拓を成し遂げた人。平成4年に松本四郎左衛門祭（干拓300年記念）が開かれた

受賞おめでとうございます

◎平成17年度地域文化功労者表彰

「地域文化功労者表彰」とは全国各地域において芸術文化の振興、文化財の保護に尽力する等地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対して、その功績をたたえて文部科学大臣が表彰するものです。

表彰式は平成17年11月9日、東京都千代田区の如水会館で行われました。

(やまもとつたごろう)

◎山本 篤五郎 (島原市) [芸術文化]



永年にわたり、島原文化連盟委員長等関係団体の要職にあって、地域の芸術文化の発展に貢献している。

(ひらどかぐらしんこうかい)

◎平戸神楽振興会 (平戸市) [文化財保護]

多年にわたり、重要無形民俗文化財「平戸神楽」の保存と継承に尽力し、地域の文化財保護に貢献している。



◎第21回長崎県地域文化章 表彰式は平成17年12月10日、長崎歴史文化博物館で行われました。

有明町島原木綿保存会
代表/久保須美子



◎所在地：南高来郡有明町
◎活動歴：15年間
◎功績事項：伝統文化の継承・保存
◎功績内容：江戸時代から織り継がれ、昭和初期に途絶えた島原木綿を半世紀ぶりに復活させ、伝統ある織り技術を貴重な歴史的文化遺産として絶やさないよう伝承活動に取り組むため、保存会を結成。中学生などを対象とする織り技術の研修や後継者の育成を行い、「平成の島原木綿織帳」の集録等に取り組むなど、伝統文化の継承・保存に貢献している。

鹿町やまと太鼓
代表/山下 実



◎所在地：北松浦郡鹿町町
◎活動歴：23年間
◎功績事項：伝統文化の継承・保存及び国際文化交流
◎功績内容：太鼓演奏活動を通じた大分県日田市との10数年にわたる相互交流をはじめ、マレーシア、韓国との海外文化交流事業に参加し、文化団体の受け入れなどを実施。アメリカ・カナダでの邦楽コンサートにも参加するなど、各種団体と連携しながら地域イベントの企画を行うなど、伝統芸能を通じた国際文化交流に貢献している。

ひよこの会童謡合唱団
代表/野田昭子



◎所在地：長崎市
◎活動歴：19年間
◎功績事項：芸術文化の振興
◎功績内容：日本の児童文化である「童謡」の素晴らしさを伝え、心豊かな人間性を育むことを目的に結成。福祉施設への慰問コンサートや市民音楽祭、青少年センター文化祭等への出演など、地域における文化活動を積極的に行っている。「全国童謡歌唱コンクール」での3回の優勝など、童謡を通じた芸術文化の振興に貢献している。

EVENT@GUIDE

最新イベントガイド

郷土の芸術家公演

★★★★★★★★ 大好評のうちに完了しました ★★★★★★★★



スーパー和太鼓プロジェクト
「Zi-PANG・LIVE2005」

■平成17年12月18日(日)雲仙市・ハマユリックスホール



クラシックギターの魅力・益田正洋
若きピアニスト田代節子

■平成18年1月8日(日)西海市大島文化ホール



長崎県内で大活躍中の都山流尺八と生田流箏曲の竹山直樹氏と竹山ミサオ氏によるコンサート。地元からは、上五島芳栄会(中山流民謡)・白樺会(琴)・涛声会(詩吟)の皆さんが出演。



◎涛声会



◎白樺会



◎上五島芳栄会

箏・尺八への誘い 竹山直樹 竹山ミサオ

■日時/2月12日(日) 13時30分開演
■会場/新上五島町石油備蓄記念会館
■料金/500円(高校生以下無料)



チエロコンサートと「魅惑の17〜18世紀フランス絵画展」

■日時/2月5日(日) 13時と16時の2回公演
■会場/長崎県美術館
■定員/各60名
■入場料・コンサート無料
■企画展鑑賞料金半額
(一般500円・高大生400円
中学生250円・70歳以上350円
小学生以下無料)
■申込み方法/1人で5名まで

文化基金へご協力ください

●長崎県文化基金とは…

- ◎ 本県の芸術文化の振興と普及を図るために昭和51年に長崎県が創設し、運用しています。
- ◎ 県、市町村、企業のほか、文化団体や個人の寄附により、毎年100万円以上の寄附をいただいております。その金額は5億3千万円を越えています。
- ◎ 基金の利子は長崎県文化団体協議会を通じて、各種文化団体の事業に活用されています。

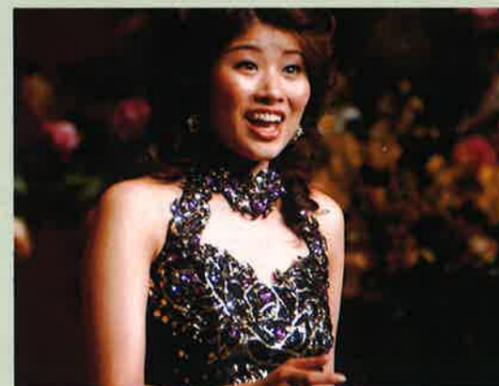
●県文化基金への寄附は税制上の優遇措置があります

◎個人の場合

国税については寄附された金額の全額より1万円を差し引いた額が所得控除の対象となります。ただし年間所得額の25%以内が所得控除の限度額となっております。県・市町村民税については寄附された金額の全額が損金算入されます。

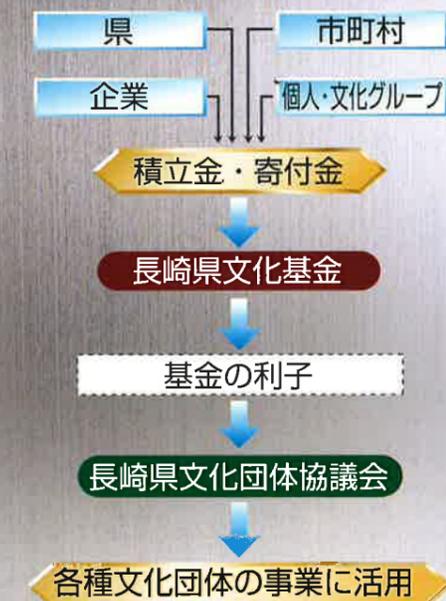
◎法人の場合

国・県・市町村民税については寄附された金額の全額が損金算入されます。



33回新人発表演奏会で熱唱する吉川友理さん。
第59回学生音楽コンクール福岡地区大会で第一位となり全国大会に出場した。

長崎県文化基金のしくみ



●長崎県文化団体協議会とは…

本県における芸術文化団体の相互の連絡協調を図り、文化活動を促進し、県民文化の向上を期することを目的に昭和38年発足。現在、芸術文化団体や市町村文化協会など101団体が加盟しています。

編 / 集 / 後 / 記

雑誌の編集などしたことのない私は、「取材に行くよ」と言う言葉にうれしさ半分不安半分の飯盛行き。藤本さんの明るい笑顔にほっとしたもの、あれよあれよという間に取材は終り。原稿を書くにあたり、「さあ、困った。すっかり、話の内容を忘れて…」取材メモを基になんとか文章にすることができましたが、編集長の校正のすさまじいこと!次号では、

成長した姿を見せられるように頑張ります。【野崎】

大山先生には来年の35回記念新人発表演奏会まで誌上参加していただくことになった。津軽三味線、人形浄瑠璃、室内楽、人形劇、桶太鼓と、この3ヶ月で接した公演はどれも素晴らしいものばかり。しかも低料金。誌面を通じてそれぞれの舞台の雰囲気を感じてもらえれば有り難い。【江口】

BUNKYO 文協

第63号(2006年)平成18年1月発行

発行/長崎県文化団体協議会
住所/〒850-8570 長崎市江戸町2番13号
長崎県県民生活環境部 文化振興室内

電話/TEL (095) 822-6049 FAX (095) 824-8192
編集/長崎県文化団体協議会事務局
印刷/(株)藤木博英社